



〈教育目標〉 あたたかい心で人とかわかり、何事にも全力で取り組む生徒の育成

臨時休業の今こそ挑戦してほしいこと

新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校の臨時休業が続いています。休業措置も3か月目に入りました。始業式と入学式は済ませたものの、臨時休業中の生活や学習の確認とその準備を慌ただしく行っただけでの休業入りということで、1学期が始まっている実感はありません。学校では、5月中の学習課題の準備や6月からの学校再開に向けた準備を行っています。

現在の報道では、政府や県の自粛要請に多くの人々が応じ、このままいけば危機的な状況は避けられそうな感があります。しかし、いきなり元通りの生活に戻れば再び感染のリスクが高まるということで、学校としてもどのような再開がよいのか、市の考えや他校の状況などを踏まえたうえでお伝えしたいと思います。

* * * * *

オンライン学習、オンライン会議を始め「オンライン〇〇」が話題になっています。コロナ禍は私たちの日常に大きな不安と打撃を与えていますが、その一方で、新たな取り組みや新しい考え方のきっかけになるという識者の報道もされています。この臨時休業で得た時間の活用の仕方について、各学年・学級で話があったことに加えて、生徒の皆さんに改めて考えてほしいこと、実践してほしいことを二つお伝えします。

生徒の皆さんへ ～学習する力、学習できる力を高めよう～

1

- * 計画を立てて、学習を実践できるようにする。
- * 自分に合った（家庭）学習方法を身に付ける。

学習は、学校に通っている人だけがするものではありません。社会に出れば、仕事に関する様々な学習が必要です。自分の仕事に必要な資格や免許はもちろん、日々の仕事の過程で必要なことや疑問は、その仕事に一生懸命に取り組むほど出てきます。そのために必要なことをどう調べるか、どう学んでいくかは、どうしても身に付けなければならない力です。それはまた、それぞれの年齢・キャリアにおいて常に求められます。いくつになっても勉強なのです。学校の授業は、学び方を学ぶ時間でもあるのです。

学校に通っているうちはどうしても受け身になりがちな学習ですが、以上のように考えると、大事なのは身に付ける知識よりも「学習の仕方・学び方」なのです。小学生の頃は言われたとおりにやってきた学習かもしれませんが、自分の力や性格などいろいろなことを考慮し、試行錯誤しながら、自分に合った学習方法を見つけることが大切です。

皆さんに配ってある北友ノートは、先生方が毎年見直している北中生のポイントを1冊にまとめたものです。北中の皆さんなら、既に生かしている人も多いかもしれませんが、その中の「家庭学習の手引き」をよく読んで実践してみることをまずはお勧めします。

ついでに言えば、これまでは、自分が獲得した知識の量を学力とし、いろいろなことをどれくらい正確に知っているかを学力とする風潮がありました。しかし、単に知識があっても、それを生かせなくては意味がないということで、急速な社会の発達で大きな変化が予想されるこれからの時代にあっては、「学んで得たことをどう活用するか」や「何のために何をどのように学ぶか」が大切であるとされています。大学入試などの改革もこういった点を意識してのものです。

必要なことは先生や親などの大人にアドバイスを求めながら、自分自身で学び方を追究していく、そんな休業期間の学習を意識してもらいたいと思います。

* 読書の時間を確保する。

2

～著者の思いや考え方に触れたり、話の世界を疑似体験したりするなかで、

人間としてのものの見方や考え方の幅が広がります～

読書の効用は、古くから言われています。様々なICT機器が活用され、読書も本だけでなくそれらを活用する人が増えている今の時代にあっても、読書の効用はいろいろなところで叫ばれています。また、全国学力・学習状況調査結果の分析からは、「読書が好き」、「学校や地域の図書館に行く頻度が多い」と答える児童生徒ほど正答率が高いという傾向が見られると報告されています。簡単に言うと、『読書は学力向上に大いに関わる』ということになります。

岸本裕史氏が読書の効用について著した本『見える学力、見えない学力』には、次のようなことが書かれていますので、一部を要約して載せてみます。興味深い内容です。

- ・ 学力の土台は言語能力である。言語能力の豊かな子は学業成績も一般的には優れる。
- ・ (読み、書き、計算、教科の基礎知識等) 見える学力の土台としての見えない学力 (本に親しむ力) が貧弱なままでは、成績もすぐ頭打ちになる。見えない学力の核心に読書がある。
- ・ 家庭学習の習慣と同じ比重で、読書の習慣を付けることに気を配ることが大事。
- ・ 子供の言語能力の発達は、一日も休むことなく続いている。(略) もちろん教師もその発達に一定の効果的な作用を及ぼすが、その影響力には限りがある。
- ・ 本には、親や教師から教えてもらえない知識や発想、論理に加え、異質な知見も書かれており、歴史や世界、自然の秘密、優れた人物の生い立ちも分かる。読むほどにいろいろな文章に接し、新しい言葉も覚えていく。学力の土台となる言語能力は、読書を通じて目覚ましく伸びていく。
- ・ 読書好きな子は、頭の中にイメージを描く能力が発達していく。これは学校での系統的な教科の学習に大いに役立つ。豊かな情感のある話を聞く(読む)などの経験の少ない子は本を好きになれず、目で見えるテレビや漫画にひかれる。イメージを思い浮かべる手間をかけずに済むからである。読書嫌いであると、このイメージ化がすこぶる苦手であるため、学力の獲得や定着に差が出る。
- ・ 読書は、人が自らの知的能力を高め、自らを啓発し、自らの展望を切り開くもっとも卓越した自己教育活動である。いったんその楽しみや喜びを知った人は、生涯を通じて読書好きになり、常に自己教育、自己変革を積み重ねていく。

(改訂版『見える学力、見えない学力』 1981年第1刷 2016年第73刷発行 より)

近年、生活のあらゆる部分にAI(人工知能)が導入され、果たして人間が勝てるか!?!というところにまで発達・発展しています。この本を読むと、人間がAIに負けないカギは、読書で想像力・創造力を高めていくことにあるのではないかと思います。

岸本 裕史(きしもと ひろし 1930年-2006年)

神戸市出身の小学校教師で百ます計算の生みの親。「見える学力・見えない学力」という概念を提起し、日本の教育現場に多くの共鳴者を生んだ。エリート教育と競争否定の双方に反対し、徹底した反復訓練による落ちこぼれ救済の論陣を張る。近年では、弟子筋の陰山英男が百ます計算を活用し、小学生の基礎学力向上に成果を見せたことにより話題となった。(ウィキペディアより)

6月からの学校再開へ向けて、今は我慢の時です。自分や周りの人の健康を第一に、“日常”が取り戻せるまで今できる範囲で最善を尽くすことに努めましょう。

現在の状況が維持されれば、来週以降、学校再開に向けての分散登校を始めます。詳しくは、保護者の方をお願いしている「課題配付日」にお渡しする学年だよりや学校メールをご覧ください。



5/12(火)～14(木)の「課題配付日」は、7時半から16時まで交代で保護者の方をお迎えします。ご協力をお願いします。